

多くの人で にぎわった 定山溪

生まれも育ちも定山溪で、昔の定山溪を知る森田さんに、当時の思い出や、定山溪の様子についてお話を伺いました。



もりた さだお
森田貞雄さん

昭和12年頃、定山溪を流れる豊平川でのボート乗船が、行列ができるほどの人気で、私は学校に通う傍ら、船頭のアルバイトをしていました。私が船をこごうとすると、「ちゃんとこげるのかい?」と心配されたりしましたが、船を進めていくと美しい溪谷が広がり、みんな喜んでくれました。

そして、自宅前の通りにはあふれるほど観光客がたくさんいましたね。夜も浴衣の人が多く歩いていて、当時の定山溪は、今とはまた違ったにぎやかさがありました。



昭和初期頃にホテル・旅館が発行したパンフレットの表紙 (定山溪観光協会提供)

電車が走り 一大観光地へ

産業の発展などで観光地へと変化してきた定山溪は、大正十二年、当時の小樽新聞社が募集した「北海道三景」の一つに選ばれてから一層有名になりました。

そして、貨物や観光客の輸送が増加してきたことから、昭和四年、定山溪鉄道は蒸気機関車から電車へ変わり、輸送力が強化されました。また、所要時間も豊平から定山溪まで約五十分と大幅に短縮されました。当時、郊外を走る電



電車に変わった後の定山溪鉄道 (昭和10年。札幌市文化資料室所蔵)

車は大変珍しく、東京以北では初めてのものだったため、電車を見物するついでに温泉に行こうと思った人も多かったようです。

電車になってからは、一日の平均乗客が約千人と、それまでに比べ大幅に増えました。運行本数も増え、乗車時間も短くなったことで、日帰りで定山溪観光を楽しむ人も増加していきました。

こうして気軽に多くの人が訪れるようになり、温泉街はますますにぎやかになっていきました。ビアホールでは色電球の装飾などで観光客を呼んだりしていました。

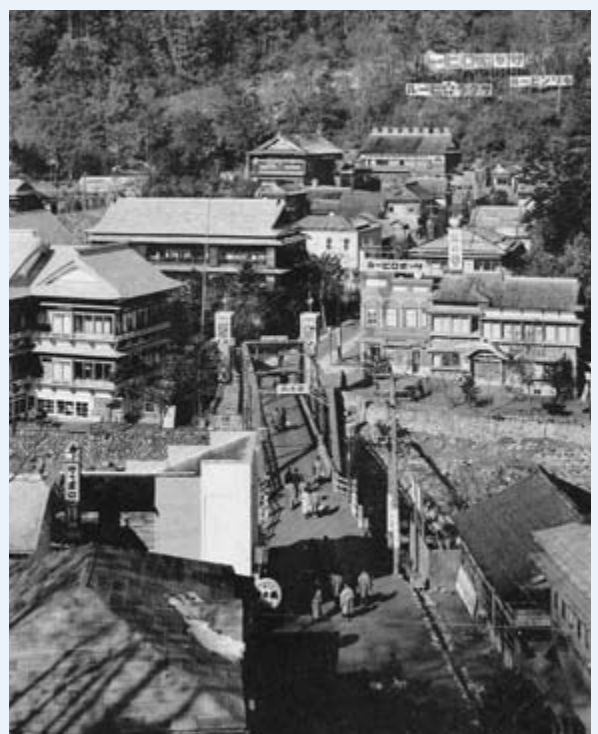
また、団体客が乗った電車が駅に到着すると、歓迎する花火が打ち上げられたこともあったと言われています。

昔の交通費・宿泊費は?

昭和4年の豊平から定山溪までの片道電車運賃は65銭で、昭和9年の観光パンフレットでは宿泊料が2円50銭から5円と紹介されています。

ちなみにこの頃、そばが1杯10銭、週刊誌が1冊13銭くらいであったようです。

旅館では、食事や宴会の内容、団体宿泊料などの相談に応じるといふサービスの向上をパンフレットで紹介していました。加えて、浴場を大き



昭和10年代前半の定山溪 (定山溪観光協会提供)

くしたり、建物を増築したり、団体客用の大広間を設けたりするなど、施設の整備も進み、この時期に定山溪は観光地として一段と大きな発展を遂げました。

★ ★ ★
その後、昭和三十年代に北海道観光ブームが訪れたことで、温泉旅館も高層化、近代化が一気に進み、外国からも多くの観光客が訪れるようになり現在に至っています。
今も昔も人々の憩いの場となっている定山溪。これからも多くの観光客に安らぎをもたらすことでしよう。

